

東やまと市 もっともっとジモト農業を身近に！

Vol. 01 2018 Spring

農 Farmer の 人

発行：東大和市農業委員会

〒 207-8585 東京都東大和市中央 3-930

TEL : 042-563-2111 (代表)

FAX : 042-563-5927

はじめまして！



東やまと市

新・農業委員会メンバー紹介

農地法の今後

春のイベント紹介

新農業委員会ご紹介！



News!

会長あいさつ

中村 勝司 (なかむらかつじ)

東大和市農業委員会の中村です。第23期農業委員会の活動が平成29年7月より始まりました。農業委員会法の改正に伴い農業関係者以外の方も含めて多様な人材が活動できるようになり女性農業委員も3名誕生するなど、新体制として活動をスタートしております。近年、農家では高齢化や後継者不足等により担い手が少なくなり、農地を守るため地域の農家が協力し合いながら、持続可能な農業経営を推進しています。また市内の農地は減少の傾向にありますが、新鮮な野菜・果実の提供、緑の保全、災害時の一時避難場所など、とても大切な役割を担っています。農業委員会は、農地の活用と保全を推進して行くことが使命であると考えています。農家の方々だけでなく、市民の皆さまにもご理解とご協力をいただきますようよろしくお願いいたします。



比留間 淳二 (ひるまじゅんじ)

芋窪地区

このたび農地部会長を務めさせていただくこととなった比留間です。新体制で3年間活動してまいります。東大和農業の発展のために頑張りますので、よろしくお願いいたします。



岩田 高雄 (いわた たかお)

芋窪地区

農業委員2期目の岩田です。年間50種類の新鮮野菜を市民の皆様にお届けしています。東大和農業も高齢化と後継者不足で厳しい現状ですが、農地保全に全力で取り組んでまいります。



町田 悦郎 (まちだ えつろう)

狭山地区

地域の貴重な緑地である農地を守り、市民の皆様へ新鮮で安全な野菜を提供する東大和農業の一層の発展のため、微力ですが農業委員活動に尽力してまいります。



関田 義保 (せきた よしやす)

狭山地区

日々、農業に従事しています。農業に携わる者として、東大和農業に少しでも貢献できるよう、また少しでも皆様のお力になれるように努めていきたいと考えています。



大羽 敬子 (おおば けいこ)

新堀地区

地域農業は農業者と市民とで支えられていくものです。地場野菜に多くの市民が関心を持っていただけるよう、小さなことから始めていきたいと思っております。



石原 隆 (いしはら たかし)

蔵敷地区

野菜や木の葉を見ると、眼も心も休まるし、土に触ると本当の自分に帰れる気がします。自分で作る野菜や地域で作られた野菜は美味しいし、安全・安心です。この環境が保持されるよう努めていきます。



岸 光敏 (きしみつはる)

奈良橋地区

私は東京都の緑化事業に利用される植木(ツツジ類)を主に生産しております。東大和農業の発展と農地の活用・保全に少しでも貢献できればと思っております。



乙幡 重男 (おっぱた しげお)

芋窪地区

農業に従事して約20年、先輩方に追いつけ追い越せと頑張る日々…。これからは東大和農業の発展のために、新しい力になれるよう努めたいと思っております。



森田 良子 (もりた よしこ)

清水地区

右も左もわからぬ私が市内の農地を毎月調査させて頂き、営農の大変さを目の当たりにしました。地産地消の推進が農業振興に寄与できると思っておりますので、安全・安心な地場野菜のPRに努めるよう頑張ります。



石川 文男 (いしかわ ふみお)

奈良橋地区

安心・安全な新鮮野菜の供給、緑地空間、災害時避難場所など、農地保全の重要性を感じています。私自身も減農薬野菜を直売所で販売し、皆様に喜んでいただいています。



木下 修一 (きのした しゅういち)

清水地区

清水地区の木下です。農業委員としての自覚と責任感を持ち、東大和農業を取り巻く現状に理解を深めます。時代に即した視点から農地に係る問題や役割についても学び、農業の活性化についても微力ながら努力してまいります。



関田 文吉 (せきた ふみよし)

高木地区

住宅に囲まれた農地は都市農業ならではの光景ですが、農薬散布や機械の騒音などに気を付けています。農業委員も2期目となり、指導する側として恥じない農地管理をしたいと思っております。



小林 由美子 (こばやし ゆみこ)

新堀地区

東大和の農業について、たくさんの人に見て知って頂き、色々なアイデアや夢をひとつひとつ実現したいと思っています。そのためにはたくさんの方々へぜひ地元に興味を持っていただき応援して頂けるとうれしいです。



農業体験



イベント

優秀な野菜



表彰式



市民のみなさんと



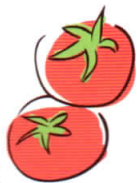
完売となった優秀な野菜たち



表彰状を持つ野口さん、比留間さん

視察 2017年9月8日(金)

『食の安全・安心』について 横浜市の山下埠頭倉庫の施設



東大和市農業委員会は平成29年9月8日に『食の安全・安心』をテーマに日本における輸入農産物の現状を学ぶ為、横浜市の山下埠頭倉庫の施設見学を行いました。

港湾労働組合の奥村芳明執行委員長から輸入食品の現状をご説明いただく中で、日常食品の多くは輸入であり日本の食料自給率38%とその低さに驚きました。輸入農産物の衛生管理も以前より良くなったとは聴きますが、新鮮で安全な生産者の見える地元作物の普及に努めることで『食の安全・安心』を支えている地元農業の発展にも繋がることと思います。

(大羽委員 / 記)

イベント 2017年11月4日(土)-5日(日)

産業まつり開催 共進会でのイベント



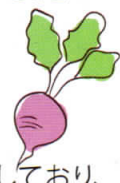
第48回東やまと産業まつり(H29.11.4~5)において、農産物共進会が開催されました。市内農家より出品された優秀な野菜の厳正な審査が行われ、東大和市長賞をはじめ各特別賞が決定しました。昨年は8月の長雨や10月の台風などにより生育が心配されましたが、114点と多くの出品があり盛況でした。展示会の後には即売を行いほぼ完売となるなど、市民の皆様大変ご好評でした。

今後も東大和農業の発展のために、更なる生産性・品質向上を目指し、地産地消を積極的に推進してまいります。共進会において出品していただいた方々には厚くお礼申し上げます。

(岩田委員 / 記)

表彰 2018年2月22日(木)

比留間さん、野口さん、 中村さんが表彰されました!



東大和市農業委員会では、優秀な農業経営を行っている農業者を各団体に毎年推薦しており、今年は3名の方が表彰されました。企業の農業経営顕彰の比留間淳二さんは、直売所と学校給食を中心に販路を多様化し、落ち葉堆肥による土づくりなど環境に配慮した野菜づくりを心掛けています。

北多摩地区農委連合会優秀農業経営者表彰の野口和広さんは、9年にわたり農業委員を務め、少ない農地を有効活用して少量多品目を庭先で直売しています。農業功労者表彰の中村ノブ子さんは、野菜と切り花を中心に直売しており、50年以上にわたって地域に根差した農業を続けています。

(事務局 / 記)

やまとの畑は スグレモノ!

新鮮で安心! 農産物の供給

東大和は小規模な農家が多く、
とれたて新鮮な農産物を
庭先や JA 東京みどりの直売所で販売しています。



やすらぎと潤い! みどりの景観

住宅地の多い東大和にあって、農地は貴重な緑地空間です。
みどりあふれる景観で季節感を伝えてくれます。

みどりを活かす! 環境保全

ヒートアイランド現象の緩和、大雨の際の貯水機能など、
農地は自然環境を保全しています。

万が一! 防災空間

農地は災害時に延焼を防止する空間となります。
市と JA 東京みどりが締結した災害協定に登録した農地では、
地域の避難場所や農産物の供給拠点としての役割を果たします。

食を未来へ! 食育の場

農業が身近に存在することで、子どもたちが土に触れる機会を
増やすことにつながります。

市も農業体験事業などを通じ、子どもたちが
「食」や「農」への理解を深めることを
サポートします。



編集後記

新しくなった農業委員会が発信する、農の人【Farmer】はいかがでしたでしょうか。
これからも東大和の地元野菜&農家さんを応援しながら、地域の盛り上げ役として
情報発信していきます! たくさんの応援よろしくお願いたします。(K)



掲示板



農業体験のお知らせ

お子様がいっしょの家族連れを主な対象として、
今年も市内農家の協力で農業体験(収穫体験等)を
開催予定です。

詳しくはその都度 HP や市報等で募集します。

お楽しみに!



農業者年金に加入しましょう

農業者年金は積立方式の公的年金で、
所得税や住民税の節税効果が大いなどの
特長があります。

加入条件

- ① 20 ~ 59 歳
- ② 国民年金第 1 号被保険者
- ③ 農業に年間 60 日以上従事

申込み: JA 東京みどりまたは農業委員会事務局へ

生産緑地法改正について

平成 29 年に生産緑地法等が一部改正されました。
下限面積など一部指定要件の緩和などが盛り込まれています。

詳しくはこちらをご確認ください
【農水省 QR コード】



農業新聞を購読しませんか?

全国農業新聞は、
「食」と「農」に関する
様々な情報が掲載された、
農業経営や暮らしに役立つ
農業総合専門紙です。

- ・発行日 毎週金曜
- ・購読料 月額 700 円



申込み: 農業委員会事務局へ